

学年 中1～中3

教科等

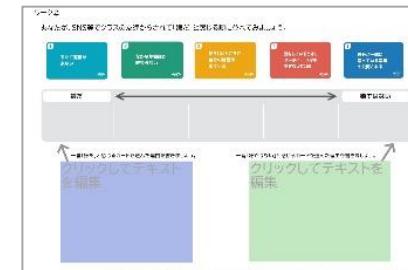
特別活動

単元等

自分と相手との違い

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

自分と相手との、受け止め方や考え方の違いについて学ぶ

準備

- 「みんなのボード」に「ワーク①」「ワーク②」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<ワーク①> <ワーク②> <ワーク③>）を取得する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 同じ言葉でも、人によって感じ方が違う言葉があることや、文字だけのコミュニケーションでは感情が伝わらないために誤解されやすいということに気付くことができます。
- 言葉に限らず人からされて嫌なこともそれぞれ違うということに気付き、トラブルが起きて嫌な思いをしないためにどうすればよいか考えるプロセスを、今後のコミュニケーションに活かすことができます。



使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.6-8 「自分と相手との違い」（活用の手引p.7）



授業の流れ

1. クラス全体に対して、SNSを使ったことがあるか、どんなアプリを知っているかといった質問をし、子どもたちは挙手で答える。
2. 「オクリングプラス」の「マイボード」に送られた＜ワーク①＞のカードを各自で開く。
3. それぞれが、クラスの友達からSNS上で言われて「嫌だ」と感じる言葉を一つ選んでピンを押し、その理由をカードに入力する。
4. みんなのボードの「ワーク①」に記入済みのカードを送り、どの言葉を嫌だと思う人が多いかクラス全体で確認する。
5. 嫌だと思う理由についてグループ内で意見交流し、代表者が気が付いたことをクラス全体に発表する。
※SNS上で言われた場合と、直接言われた場合との印象の違いなども伝え合う。
6. 「マイボード」に送られた＜ワーク②＞のカードを各自で開き、SNS等でクラスの友達からされて「嫌だ」と感じる順に並べたうえで、最も「嫌だ」と感じるカードと、最も「嫌ではない」と感じるカードについて選んだ理由をそれぞれ入力し、「みんなのボード」の「ワーク②」に送る。
7. グループになり、それぞれのカードを見せながら意見交流する。
8. グループの意見交流のなかで気付いたことを、代表者がクラス全体で共有する。
9. 「マイボード」に送られた＜ワーク③＞のカードを各自で開き、どのようなトラブルが起きる可能性があるかを考え、入力する。その内容をふまえ、グループで話し合う。
10. 話し合った内容をクラス全体で共有する。
11. ＜ワーク③＞のカードに各自で振り返りを入力し、先生に提出する。



- <ワーク①>では、「ピン集計」を使うことで意見の分布を即時に確認できるので、多数派と少数派それぞれの意見を交流させる時間を確保することができます。
- <ワーク②>では、「みんなのボード」に送られたカードを見ることで、さまざまな感じ方や意見があるということを実感することができます。



学年 中1～中3

教科等

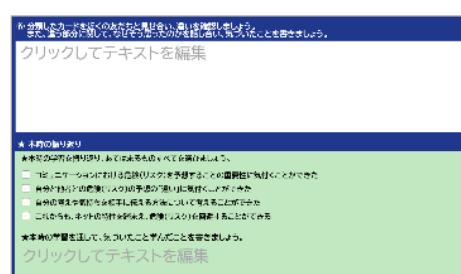
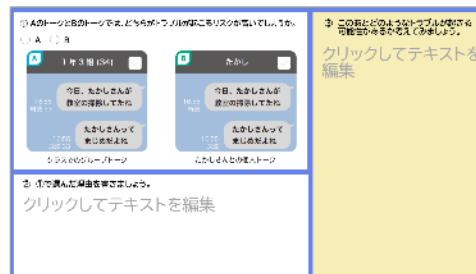
特別活動

単元等

こんなつもりじゃなかったのに

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

ネット上でのコミュニケーションにおけるリスクについて考える

準備

- 「みんなのボード」に「ワーク①」「ワーク②」（班数分）「ワーク③」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<ワーク①> <ワーク②> <ワーク③>）を取得する。

サポート
おすすめ
ポイント

- コミュニケーションにおける危険（リスク）を予想することの重要性に気付くことができる。
- 自分と他者が考える危険（リスク）には違いがあるということを知ることができる。
- ネットの特性を踏まえ、危険（リスク）を回避しながら、自分の考え方や気持ちを相手に伝える方法について考える力を身につけることができる。

使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025>p.9-11 「こんなつもりじゃなかったのに」（活用の手引p.8）



授業の流れ

1. クラス全体に対して、SNS等のチャット機能でグループを作っている、もしくは作ったことがあるかといった質問をし、子どもたちは挙手で答える。
2. 「オクリンクプラス」の「マイボード」に送られた＜ワーク①＞のカードを各自で開く。
3. AとBのトークについて、トラブルが起こるリスクが高いと思うほうを選ぶ。
4. 選んだ理由やこのあと起こりそうな具体的なトラブルの内容を考えてカードに入力する。
5. 「みんなのボード」の「ワーク①」に記入済みのカードを送り、AとBどちらを選んだ人が多かったか「選択肢集計」で確認する。
6. ペアになり、自分の意見と相手の意見を比較しながら意見交流する。
7. 「マイボード」に送られた＜ワーク②＞のカードを各自で開く。
8. 5つのトーク例を読み、それぞれどのような展開になるのか予想したうえで、カード上で分類して理由を入力する。
9. 「みんなのボード」、各班の「ワーク②」のボードにカードを送り、班のなかで意見交流する。
10. 班の話し合いで気付いたことは、＜ワーク③＞のカードに各自で入力する。
11. 班の代表者が、班の意見をまとめて**クラス全体**に発表した後、「みんなのボード」の「ワーク③」に＜ワーク③＞のカードを送る。
12. ＜ワーク③＞のカードに本時の振り返りまで入力したら、＜ワーク①～③＞のカードをつなげて、「提出BOX」に提出する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 「みんなのボード」も参照することで、発表する一部の子どもだけではなく、クラス全体の多様な意見に触れることができ、自分の意見も出しやすくなります。
- 「みんなのボード」の名前は「非公開」に設定することもできるので、勝手なイメージや偏見のない率直な意見交流を行うことができます。
- 時間がない場合は、入力を省き口頭での意見交流に。時間がとれる場合は、もっと話し合いの時間を多く取って深く掘り下げていくなど、先生やクラスの実態に合わせアレンジしてください。



学年 中1～中3

教科等

特別活動

単元等

写真を公開する前に

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

ネット上に写真を公開する際のルールやマナーを学ぶ

準備

- 「みんなのボード」に「ワーク①」「ワーク②」「ワーク③」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<ワーク①> <ワーク②> <ワーク③> <振り返り>）を取得する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 写真を公開してもよいと思う基準は人によって異なること、公開すると消すことが難しいことなど、ネット上に写真を公開する場合の特性について知ることができます。
- 予期しない情報をSNSを通して知らせてしまうといったリスクに対して、その公開する範囲によって状況が変わるということも踏まえて見積もる力を養うことができます。



使用コンテンツ >GIGAワークブック スタンダード2025> p.9-11 「写真を公開する前に」（活用の手引p.8）

>GIGAワークブック アドバンスト2025> p.63-64 「どこまで写真を公開してもよいのかな」（活用の手引p.20）

授業の流れ

1. クラス全体に対して、SNSで写真を見たり、投稿したりしたことがあるかといった質問をし、子どもたちは挙手で答える。
2. 「オクリンクプラス」の「マイボード」に送られた＜ワーク①＞のカードを各自で開く。
3. ネットに公開しても問題ないと思う順に写真を並べ、「みんなのボード」の「ワーク①」に送る。
4. 「みんなのボード」上でほかの人のカードを参照し、自分の考えと比較したうえで気付いたことを自分の＜ワーク①＞のカードに入力する。
5. 「マイボード」に送られた＜ワーク②＞のカードを各自で開き、ネットに公開されたら「嫌だ」と感じる写真を一つ選んでピンを押したうえで、カードにその理由を入力する。
6. 「みんなのボード」の「ワーク②」に記入済みのカードを送り、どの写真を嫌だと思う人がどれくらいいるのか確認する。
7. それぞれの子どもが嫌だと思う写真とその理由について、**クラス全体**で意見交流する。
8. ネットで写真を公開するにはどのようなことに気を付ければよいか考え、それぞれ自分の＜ワーク②＞のカードに入力する。
9. 「マイボード」に送られた＜ワーク③＞のカードを各自で開き、公開範囲の異なるSNSで写真を公開する際のリスクについて考えたうえで「みんなのボード」の「ワーク③」のボードに送る。
10. グループになり、自分が記入したカードを見せ合いながら、意見交流する。
※それぞれの写真が持つ情報にも着目しながら、リスクを判断した理由などを伝え合う。
11. グループの意見交流のなかで気付いたことを、グループの代表が**クラス全体**に向けて共有する。
12. 「マイボード」に送られた＜ワーク③＞のカードに、各自で本時の振り返りを入力し、「提出BOX」に提出する。



- <ワーク②>では「ピン集計」を使うことで意見の分布を即時に確認できるので、多数派と少数派それぞれの意見を交流させる時間を確保することができます。



学年 中1～中3

教科等

特別活動

単元等

リスクマネジメントを身につけよう

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

端末利用におけるリスクマネジメントについて学ぶ

準備

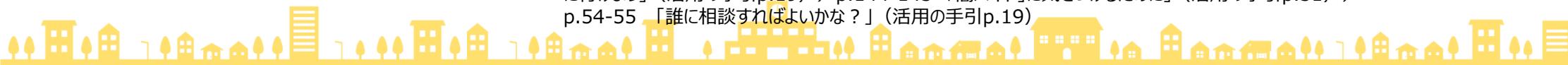
- 「みんなのボード」に「ワーク①」「ワーク②」「ワーク③」「ワーク④」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<ワーク①> <ワーク②> <ワーク③> <ワーク④> <振り返り>）を取得する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 自分に起こりうるリスクを予想し、その被害の程度を想像することで、自分が優先的に対応すべきリスクは何かを判断する力が身につきます。
- トラブルが起こったときにどうするか、そもそもどうすれば闇バイトなどに加担せずに済むかなど、状況に応じた基本的なリスクへの対応力を身につけることができると同時に、困ったら大人に相談するという意識づけをすることができます。



使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.48-49 「リスクマネジメントを身に付けよう」（活用の手引p.18）／p. 52-53 「クライスマネジメントを身に付けよう」（活用の手引p.19）／p.144-145 「闇バイト」に気をつけるために」（活用の手引p.31）／p.54-55 「誰に相談すればよいかな？」（活用の手引p.19）



授業の流れ

1. 子どもたちは、インターネットやSNSなど端末を使うことで起きうるリスクを予想し、挙手で答える。
2. 「マイボード」に送られた＜ワーク①＞のカードを各自で開き、自分に起きうるリスクとその被害の程度を考え、カード上で分類する。その後「みんなのボード」の「ワーク①」に送る。
3. 「ワーク①」に提出されたカードを見ながら、端末の使用に伴うリスクや被害の程度についてどう考えているか、そのリスクを避けるためにどう対応すればよいかを話し合う。
4. 「マイボード」に送られた＜ワーク②＞のカードを各自で開き、例示されている4つのトラブルが起きた場合、どう対応すればよいか考え、対応の仕方がわかるトラブルとわからないトラブルに仕分ける。
5. 「みんなのボード」の「ワーク②」に仕分けたカードを送り、どのような対応が適切か意見交流したうえで先生の話を聞く。
6. 「マイボード」に送られた＜ワーク③＞のカードを各自で開き、SNSのアルバイト募集の広告を見て、おかしいと思うところにピンを押すとともに理由を入力して、「みんなのボード」の「ワーク③」に送る。
7. 先生が提示する集計結果を見ながら、あやしいと思った理由をクラスで共有し、逆に、どういう場合に闇バイトに加担してしまうか想像する。
8. 「マイボード」に送られた＜ワーク④＞のカードを各自で開き、例示されている闇バイトに関する3つの状況下において、自分だったら誰に相談するかを選択肢から選び、「みんなのボード」の「ワーク④」に送る。
9. 先生が提示する状況ごとの集計結果を見ながら、その状況をどのようにとらえて選択したかなども含めクラス全体で意見交流し、闇バイトに関して注意すべきことを整理する。
→「匿名アプリ」「荷物を受け取るだけ」などのキーワードには注意が必要で、 おかしいと思ったらすぐに大人に相談する、おどされたら必ず警察に相談するなどの意識を持つ。
10. <振り返りカード>を使って、振り返りを行う。

 サポート
おすすめ
ポイント

- ・ 「ピン集計」や「選択肢集計」を使うことで、子どもたちの意見の傾向をつかんだり、少数意見の把握から多面的な意見交流につなげたりすることができます。
- ・ <ワーク①～④>について、部分的にまたは分割して実施するなど、学校状況や子どもたちの様子によってご活用いただけます。



学年 中1～中3

教科等

特別活動

単元等

災害時のSNSの使い方

活用アプリ オクリングプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

災害時のSNSとの正しい向き合い方について考える

準備

- 「みんなのボード」に「ワーク①」～「ワーク⑥」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<ワーク①>～<ワーク⑥>、<振り返り>）を取得する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 災害時に必要な情報の信頼性を見極める力を養うことができます。
- 地震など予期せぬ災害の場合に、外出先で必要となる情報や安否の確認方法など日頃から備えておくことへの意識づけを行うことができます。



使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.15-17 「災害時のSNSの使い方①」(活用の手引p.9,13) / p.18-20 「災害時のSNSの使い方②」(活用の手引p.14) / p. 21-23 「災害時のSNSの使い方③」(活用の手引p.14)



授業の流れ

1. 台風などの災害時に、どのような情報を知りたいか、また、どのようにして情報を集めるかについて、子どもは挙手で答える。
2. 「マイボード」に送られた＜ワーク①＞のカードを各自で開き、近づく台風についての4つの情報について、信頼性が高いかどうかを考えて分類する。
3. グループになり、それぞれの考えを理由とともに共有したうえで、4つの情報の信頼性についてグループで改めて分類する。仕分けが完了したら、グループの代表者が「みんなのボード」の「ワーク①」に該当のカードを送り、クラス全体で共有する。
4. 「マイボード」に送られた＜ワーク②＞のカードを各自で開き、先ほどと同様に、通過後の台風についての4つの情報について、信頼性が高いかどうかを考えて分類する。
5. グループになり、それぞれの考えを理由とともに共有したうえで、4つの情報の信頼性についてグループで改めて分類する。仕分けが完了したら、グループの代表者が「みんなのボード」の「ワーク②」に該当のカードを送り、クラス全体で共有する。
6. 「マイボード」に送られた＜ワーク③＞のカードを各自で開き、自宅で台風情報を見る時と、避難所に到着した時に必要な情報が何かを考え、「みんなのボード」の「ワーク③」に送る。
7. これまでと同様に、＜ワーク④＞のカードで、外出時に地震が起きた場合と、徒歩で帰宅する時に必要な情報は何かを考え、「みんなのボード」の「ワーク④」に送る。
8. ＜ワーク③＞と＜ワーク④＞のカードを見ながら意見交流し、台風のような「あらかじめ予測できるような災害」と地震のような「予測が難しい災害」では、必要な情報が違ってくることや、情報防災バッグのように日頃から災害時の情報収集についても準備しておく必要があることを理解する。
9. 「マイボード」に送られた＜ワーク⑤＞と＜ワーク⑥＞のカードを各自で開き、近づく台風と台風通過後の情報について、それぞれ発信してもよいかどうかを考え、選択肢から1つ選び、「みんなのボード」の「ワーク⑤」と「ワーク⑥」に送る。
10. 選択肢の集計結果を見ながら、発信してもよいと思った理由や、発信しないほうがよいと思った理由について、クラス全体で意見交流する。
11. ＜振り返り＞のカードに各自で入力し、「だいふく」の考え方を確認。「提出BOX」経由で先生に提出する。


サポート
おすすめ
ポイント

- <ワーク①>～<ワーク④>のカードは、項目を分類する際に自分の考えを整理しやすく、意見共有も即時にそして効率的にできます。
- 終盤の<ワーク⑤⑥>では「選択肢集計」を使うことで、少数の意見ももれなく、意見の傾向を確認することができます。個人やグループの考えを短時間で可視化できることで、その分意見交流の時間を確保でき、自分とは異なる意見も聞き考えを深めていくことができます。



学年

中3

教科等

特別活動
家庭科

単元等

見えないお金と
上手につきあおう

授業内容

キャッシュレス決済のメリット・デメリットを多面的に考える

準備

- 「みんなのボード」に、「全員」と各グループ用のボードを作成する。
- 各グループ用の「みんなのボード」には、思考ツールとなる分類用の背景画像を貼り付ける。
- 「オクリンクプラス」の共有コードで<カード①赤><カード②緑>、12枚の<分類用カード>を取得する。

授業の流れ

- 「マイボード」に送られた<カード①>を各自で開き、12枚の<分類用カード>を、お店（事業者）と消費者のそれぞれ異なる視点から、メリット・デメリットに分類する。
- 作成したカードを「みんなのボード」の「全員」に送り、クラス全体で意見を共有する。
- 12枚の<分類用カード>を各グループ用の「みんなのボード」に送る。グループの「ボード」で、個人の分類結果を参考に話し合いながら、12枚のカードを、改めてみんなでお店（事業者）と消費者のそれぞれ異なる視点から、メリット・デメリットに分類する。
- 「マイボード」に送られた<カード②>を各自で開く。「ポイントがもらえる」について、「なぜ、お店・事業者が、ポイントを配ることでメリットになるのか」についてグループで話し合い、それぞれが考えたことをカードに書く。
- 活動のなかで気づいたことや、話し合いのなかで得た情報から、「消費者として、キャッシュレス決済を使う場合に、気をつけなければならないことはなにか」を考えてカードに書き、それぞれ「提出BOX」に提出する。

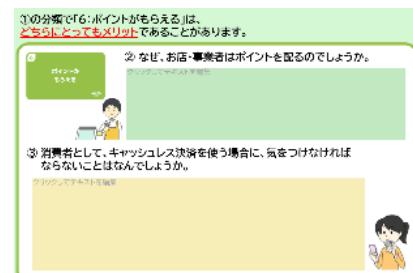
サポート
おすすめ
ポイント


- 「見えないお金」との上手な付き合い方について考えるきっかけとなります。
- 個人での思考とグループでの話し合いを組み合わせることで、意見の違いや新たな気づきを得ることができ、多面的にキャッシュレス決済のメリット・デメリットを考えることができます。
- 「マイボード」にある個人の分類結果と、「みんなのボード」にあるグループの分類結果を比較しながら意見を整理することができます。

使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.27-29 「『見えないお金』と上手につきあおう」(活用の手引p.15)

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

学年

中1～中3

教科等

特別活動

単元等

SNSによる
情報発信のリスク

授業内容

ネットの特性を理解し、じょうずに情報発信できるようになる

準備

- 「みんなのボード」に1～5の「ボード」を作成する。
- 「オクリンクプラス」の共有コードで＜カード①＞＜カード②＞＜カード③＞＜4枚の分類用カード＞を取得する。

授業の流れ

- 「マイボード」で＜カード①＞の1枚目を各自で開く。「ピン集計」と問1に自分の考えを入力してカードを作成し、「みんなのボード1」に送る。
- ピンの集計結果を見て、全体の意見を共有する。
- 「マイボード」で＜カード①＞の2枚目を開き、例示されたテーマについて、グループになって話し合う。話し合いのなかで出た意見をもとに、問2と3に考えを入力し、「みんなのボード2」に送る。それぞれの意見を共有し、時間があれば、友達のカードにアクションやコメントをする。
- 「マイボード」で＜カード②＞を各自で開き、「ピン集計」でカードを作成し、「みんなのボード3」に送る。
- 「ピン集計」の結果を参考しながら、**クラス全体**で共有するとともに、グループでも話し合い、意見を出し合う。その後、代表者が数人発表する。
- 「マイボード」で＜カード③＞を各自で開いて、AとBに分類してカードを作成する。個人の思考をもとに、次はグループで、「みんなのボード4」にペン図などの思考ツールを貼って、「誹謗中傷の特徴」と「表現の自由の特徴」を考え、話し合いながら4枚のカードをAとBに分類していく。
- グループの話し合いをもとに、＜カード③＞に各特徴を入力し、「みんなのボード5」と「提出BOX」に提出する。

**サポート
おすすめ
ポイント**

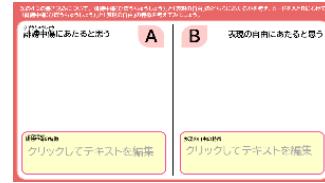
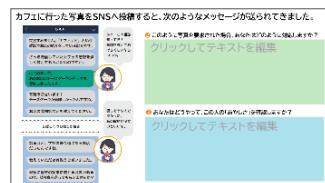
- 「ネットの特性」を理解し、情報発信の際のリスクを認識したうえで、自分が被害者や加害者にならず、上手に交流するために意識することや気を付けることについて知ることができます。
- リスクの程度をピンの色で分けることでクラス全員の集計が簡単にできるなど、活動が効率化した分、グループで話し合う時間を多く確保できることが、自分と他者との感じ方の共通点や違いを知るきっかけになります。

使用コンテンツ

> GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.34-37 「SNSによる情報発信のリスク」(活用の手引p.10, 16) / p.138-139 「どこまで伝えてよいのかな?」(活用の手引p.30) / p.140-141 「どこからが誹謗中傷かな?」(活用の手引p.31)

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

株式会社ベネッセコーポレーション

学年 中1～中3

教科等

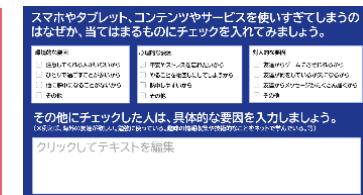
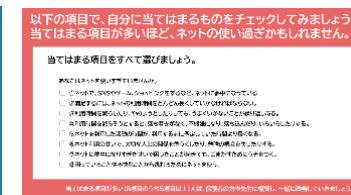
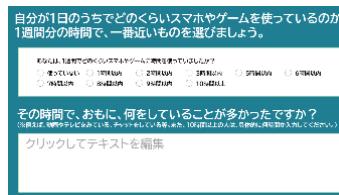
特別活動

単元等

生活を見直そう

活用アプリ

オクリンクプラス



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

生活のなかでのネットやゲームとの向き合い方を見つめ直す

準備

- 「みんなのボード」に「①時間」「②使いすぎ」「③要因」「④余暇」のボードを作成する。
- 共有コードを使用してカード（<①時間> <②使いすぎ> <③要因> <④余暇> <生活を見直そう>）を取得する。
- 授業の前に1週間の時間の記録をとる場合は、プリントやオクリンクプラスのカード<生活を見直そう>を使う。

サポート
おすすめ
ポイント

- 自身の行動を記録することで、ネットやゲームの「やりすぎ」を自覚したり、「適切な行動」について考えたりしながら、生活を見直すことができます。
- ネットやゲームに時間を費やすすぎないためのルールを考え、自分自身で制限する意識づけを行うことができます。

使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > p.12-14 「生活を見直そう」(活用の手引p.13) / p.157-158 「使いすぎてしまう時は？」(活用の手引p.33) / p.159-160 「スマホだけの余暇でよいのかな？」(活用の手引p.33)



授業の流れ

1. <①時間>のカードを各自で開く。1日のうちでどのくらいスマホやゲームに時間を費やしているのか最も近い選択肢を1つ選んだうえで、その時間で具体的に何をしていることが多かったのかを下の欄に入力し、「みんなのボード」の「①時間」に送る。なお、事前に授業の前に1週間分の時間の記録をとれた場合は、記録をもとに計算を行う。
2. <②使いすぎ>のカードを各自で開き、スマホやゲームに時間を費やしすぎていないか確認するために、当てはまる項目すべてにチェックを入れ、「みんなのボード」の「②使いすぎ」に送る。
3. <③要因>のカードを各自で開き、使いすぎている要因について当てはまる項目すべてにチェックを入れる。その他に要因があれば、具体的に下の欄に入力し、「みんなのボード」の「③要因」に送る。
4. 「集計機能」を用いてすべての結果をクラス全体で確認する。グループに分かれ、集計結果を見ながら、生活を見直す必要がある場合どうすればよいか意見を出し合う。
5. <④余暇>のカードを各自で開き、これまでに入力した自分のカードを参考にしながら、余暇の3つの機能（休息/気晴らし/自己成長）を意識した計画を立てる。生活を見直すためにやってみたいことを考え、当てはまるものにピンを押し、「みんなのボード」の「④余暇」に送る。
6. 「ピン集計」の結果を確認し、改めて生活や余暇の過ごし方を見直すことが、人生を楽しむための重要なキーワードであるということを先生から説明する。最後に、ネットやゲームに時間を費やしすぎないためのルールづくりや、自分自身を制限する力を身につけることの大切さをクラス全体で確認する。

サポート
おすすめ
ポイント

- 「集計」機能で、数に関わらず結果がすぐに共有されるので、クラスの子ども一人ひとりの意見を取りこぼさずに整理することができます。
- 自分以外の人の時間の使い方や、使いすぎている状態に対する認識、要因の違い、多様な余暇の考え方など、子どもたち人數分の多様な考え方・価値観に触れることができます。
- 全体的にワークが多めですが、調査部分は掘り下げすぎず、子どもたちの余暇に関する考え方や生活や将来の自分、人生の見直しにまで発展するような深い意見をたくさん引き出す時間を多く設けることを意識して、時間配分をしてください。



学年 中1～中3

教科等

特別活動

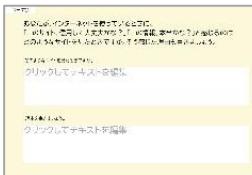
単元等

情報の信頼性の確かめ方

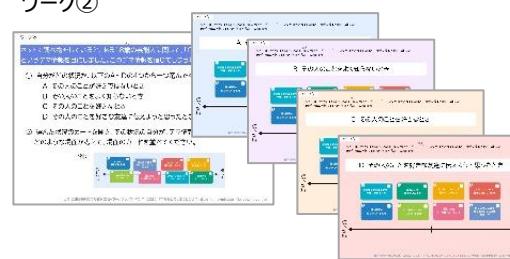
活用アプリ

オクリングプラス

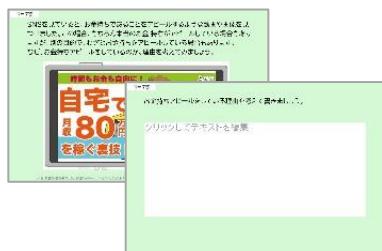
ワーク①



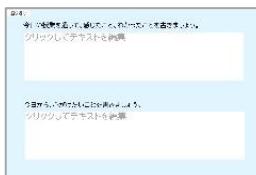
ワーク②



ワーク③



振り返り



共有コード

共有コードを入力、または
カメラを起動して
二次元コードを読み込む

pb01K49NCFYCKPBVC60B41VT5EGN

授業内容

情報の信頼性の確かめ方を学ぶ

準備

- 「みんなのボード」に、「ワーク②A」「ワーク②B」「ワーク②C」「ワーク②D」「ワーク③」のボードを作成する。
- オクリングプラスのカード（ワーク①②③・振り返り）を準備する。



情報を検索した際に、本当に信頼性の高いサイトであるかを見極めるポイントや、エコーチェンバー や フィルターバブルといったインターネットやSNSの特性を理解することで、誤情報やデマに騙されない、情報を見極めようとする態度を養うことができます。



使用コンテンツ > GIGAワークブック アドバンスト2025 > P.78-79 「情報の信頼性の確かめ方」（活用の手引p.22）／P.80-81 「デマを信じてしまうときは？」（活用の手引p.23）／P.84-85 「なぜ、お金持ちアピールをしているの？」（活用の手引p.23）



授業の流れ

- インターネットを使っているときに、「このサイト、信用して大丈夫かな？」「この情報、本当かな？」と感じるのはどのような場合か、その理由をマイボードに配付されたワーク①のカードに入力する。
- グループになって、それぞれカードに書いたことを共有し、どうして信頼性が低いと思ったのか考え、全体で交流する。
- ネット上の情報を見極めるために、「だいふく」（だれが、いつ言った？複数の情報を確かめた？）の視点で考えることや、キーワード検索した際の情報の表示のされ方の特長などを知る。
- マイボードに配付されたワーク②のカード（設問含め5枚）から、自分の状況をAからDのうち一つ選び、そのカードを開く。その状況で、デマ情報を信じる場面と信じない場面に分ける。
- 分けられたら、選んだ自分の状況にあわせて、みんなのボードの「ワーク②A」から「ワーク②D」のボードにカードを送る。
- ボードごとに送られたカードを見て、どういう場合に信じるか、気付いたことを意見交流し、状況によって信じてしまうことがあることを知り、情報を疑つたり、ほかの人の意見を意識したりする必要があることを知る。
- マイボードに配付されたワーク③のカードを開き、SNSでお金持ちをアピールしている理由を考えてカードに入力し、みんなのボードの「ワーク③」に送る。
- キーワード集計を使って、どのような意見が多いなど確認し、少数意見も取り上げながら意見交流をする。
- マイボードに配付された振り返りのカードを開き、今日の授業を通してこれから心がけたいことなどを入力して、提出BOXに提出する。



- ワーク②では、状況ごとに分かれたボードにあるカードを見て、その状況での意見の傾向などに気付くことができ、異なる状況でのちがいも知ることができます。
- ワーク③ではキーワード集計を使って、着目したポイントなどをワードクラウドで可視化することができます。

